

「塩田城、福沢諭吉と宮原清」 その1

関口 貞雄 (48期、関西同窓会)

1 はじめに

長野県中学上田支校最後の卒業生宮原清は、第1回早慶野球戦で慶応の主将、二塁手、4番打者で出場して勝利し、野球史に名を残した。後年実業界に入ってから、社会人野球協会会長としてアマチュア野球の普及に貢献し、野球殿堂入りした大先輩である。

宮原が何故福沢諭吉の創立した慶応義塾に憧れて入学を志願したのだろうか？その直接の動機となった接点を探るのが本文の目的である。

昨年5月別所温泉に宿泊した時、宿の人から前山寺の藤の花が満開で見頃ですよと花見を勧められた。花見の後、その機会を利用して塩田城址を訪れた。前山寺は塩田城の鬼門の方角に位置し、厄除けの寺として信仰された寺である。塩田城は坂城の葛尾城主村上家の一族、家臣であった福沢諭吉の先祖が城主を務めた城で、真田昌幸が上田城を築城した時に不用となって廃城とされた。

宮原は塩田城の麓にある田沢温泉で生まれた。従って塩田城址は宮原の幼少時代の遊び場となっていたと思われる。すでに有名人となっていた福沢諭吉の先祖が城主であったことは父母から聞かされ、おぼろげながら知っていたに違いない。

今年5月、私は自分の住んでいる兵庫県川西市にあった宮原清の邸宅跡を訪れた。以前の豪邸の面影は消えたものの、今も遺族が住んでいるという。上田市の塩田城址と川西市の宮原邸跡を結ぶ線が、何時、何処で発生したのか、それぞれの歴史から探訪することにした。

2 塩田城と福沢家

2-1 塩田城の築城

鎌倉幕府執権北条泰時の弟重信が信濃守護に任命され、塩田に守護所が設置された。重信の子義政が建治3年(1277)ここに城を築き、居住したのが塩田北条氏の始まりと云われる。

前山寺は弘仁13年(822)空海によって開創された古刹で、塩田城の鬼門方角に位置していたので、祈祷寺として信仰を集めた。三重塔は優美な姿を今に伝えて重用文化財となっている。鎌倉幕府は周辺に寺を創建し、改修にも力を注いだ。青木村の大法寺、別所の安楽寺、常楽寺等が新しく建てられ、蘇ったので、塩田平は信州の鎌倉と呼ばれるようになった。

2-2 塩田城の村上氏への移管

坂城、葛尾城に本拠を置く村上氏は清和源氏の本流河内源氏の庶流で、代々鎌倉幕府に忠誠を誓ってきた。「建武の新政」の発端となった朝廷対鎌倉幕府の争いが始まった時、関東で朝廷側として挙兵した新田義貞軍に村上信貞は参加した。京の足利尊氏

の挙兵で鎌倉幕府は滅び、その功で村上信貞は朝廷より塩田領を与えられた。村上信貞は一族で重臣の福沢氏を塩田城主に任命した。



塩田城跡碑



石垣

2-3 塩田城の果たした役割

武田信玄が甲斐を統一し、力を蓄えて信濃へ侵攻を開始した。先ず佐久を攻略し、更に小県へ侵入して村上義清軍と激突した。「上田原合戦」と「砥石崩れ」の2回の激戦で村上軍は武田軍を破って敗走させたが、塩田城は村上軍の最前線防衛基地として非常に大きな役割を果たした。

2-4 塩田城の攻防と村上氏の滅亡

一度甲斐へ戻った武田信玄は、軍備を整え再度信濃攻略を開始した。真田昌幸の謀略で砥石城を落城させると、状況が一変して武田軍が優勢となり、村上義清は葛尾城を捨てて越後の上杉謙信を頼って逃れた。一度は上杉軍の力を借りて塩田城を奪回したが、武田の飯富軍に攻められて再度落城した。信玄より飯富氏が新城主に任命されたが、信玄亡き後武田家が滅亡し、独立大名となった真田昌幸が塩田城を領有した。やがて真田昌幸が上田城を築城すると、塩田城は不用となり、廃城となってしまった。

2-5 塩田城落城後の福沢氏の去就

武田軍に再度敗れた村上義清は再び越後へ逃れ、上杉謙信より領地を与えられ家臣となった。越後へ随行した村上氏家臣の名簿には福沢氏の名前は記載されていない。

「保元の乱」「平治の乱」に参戦して敗れた信濃村上氏一族の村上定国は、平家の追っ手を逃れ、昔の縁を頼って伊予へ逃れた。そこで伊予村上氏が生まれ、能島、因島、来島の伊予3島で水軍を形成して強大な勢力を保持していた。

伊予村上氏は本家信濃村上氏とは親密な関係にあり、年中行事を本家へ報国し、お伺いを立てた記録が残っていると伝えられる。

福沢氏はこの縁を頼って伊予へ落ち延びる道を選び、村上水軍の頭領能島村上武吉

に助けを求めた。村上武吉は快く本家の縁者を受け入れ、豊前中津藩奥平家への仕官を仲介した。家臣となって落ち着いた福沢氏は無事に幕末を迎えた。

2-6 福沢諭吉の信州旅行

福沢諭吉は中津藩大坂屋敷で生まれ、緒方洪庵の適塾で蘭語を学び、世界への目を開かれた。後に英語を独学で習得し、咸臨丸で軍艦奉行木村摂津守の従者として渡米した。帰国後、慶応義塾を開校して若者を教育し、著作を通じて明治の文明開化を主導して教育界、言論界に大きな功績を残したことはよく知られている。

福沢は晩年になり家族と門下生を連れて信州旅行を行っている。明治29年(1896)11月6日から11日のことで、主な目的は各地で依頼された講演を行うこと、善光寺参りをし、家族に祖先のルーツ信州を見せることであった。

その時の日程表を見ると、まずは長野市に入り、長野師範学校で「教育の効用」と題して講演を行い、その後で善光寺に参詣している。その後は直江津、高田、小諸、野沢と廻って慶応義塾の教え子の招きに応じて講演旅行を行った。しかしこの旅行では上田市及び当時の西塩田村(現在は上田市)の塩田城址は訪れていない。

福沢が明治6年(1873)東京に建てた墓所の碑文墓誌銘の冒頭に「福沢氏の先祖は信州福沢の人なり」と明記されている。信州旅行の際もその発言をしており、何よりも家族に祖先の発祥地を見せたくて信州旅行を発案したと思われる。

福沢は信州旅行の翌年に脳溢血を発症し、3年後の明治34年(1901)2月に逝去した。



福 沢 諭 吉

(2018年9月記)

以上

(「塩田城、福沢諭吉と宮原清」その2に続く)

- その2の内容は
3. 宮原清の生い立ちと慶應義塾入学
 4. 第1回早慶野球戦
 5. 宮原清のその後
 6. おわりに